



# ご存知ですか？ 肺炎球菌ワクチン



事項	生ワクチン	不活化ワクチン
誘導する免疫	主にT細胞による細胞免疫	主にB細胞による抗体産生
接種回数	1回投与により有効	数回接種
免疫の持続	永続性	一時的
製造工程	単純	精製行程を含め複雑
生産価格	安価	高価
保存性	不安定	安定
副反応	毒性復帰など時に重大	概ね一過性
対象病名・病原体	ポリオ、麻疹、天然痘、風疹、 黄熱病、おたふく風邪、水痘	インフルエンザ、日本脳炎、B型 肝炎、 <b>肺炎球菌</b>

## 一生に一度 の 接種

～日本人の死因の4番目が肺炎で、高齢者を中心に年間では8万人が肺炎で亡くなっています。高齢者の肺炎の原因となる病原体の中で、最も頻度の高いのが肺炎球菌です。

以上有効で、インフルエンザワクチンと併用（投与間隔は6日以上あける）することで、肺炎予防効果や軽症化や抗生物質が効きやすなどの利点があります。

肺炎球菌ワクチンはインフルエンザワクチンの様に毎年接種する必要がありません。一度接種すると1年

2009年には、6歳以上であつたり、臍掻出した人や免疫低下をきたす病気の人などに対してはワクチンの再接種が認可されました。

## INFORMATION

### 小児の ワクチン

すべての小児は、生まれてから2年の間に、少なくとも1回は肺炎球菌を接種して、鼻咽喉頭に定着します。成人では6週間、一部の例では1年以上も保菌し

(高齢者)

ていることがあります。



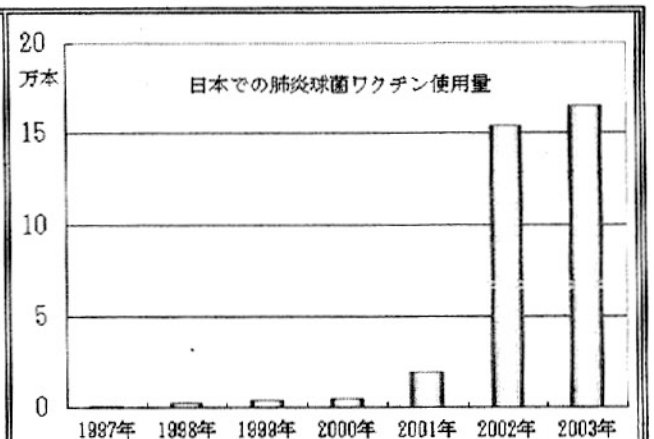
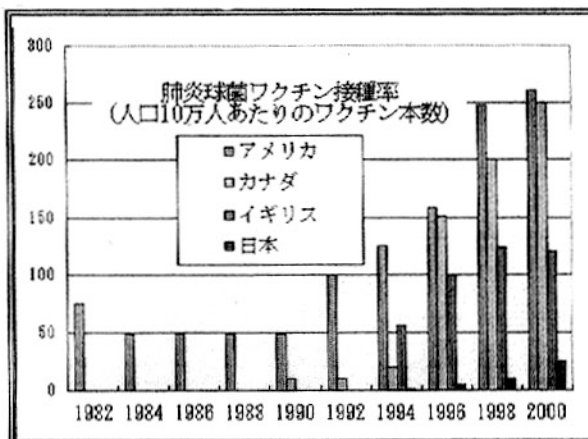
### 公費助成は

小児ワクチンは7価肺炎球菌ワクチン（商品名 プレベナー）で、9歳以下の小児が保険適応となります。このワクチンにより、髄膜炎や敗血症などの予防だけでなく、咽頭での肺炎球菌の定着を阻害する効果も期待されています。中身が減少の効果もあります。



公費助成は、保険適応疾患は、臍掻指出後の肺炎球菌感染予防のみで、それ以外は自費です。7000円～10000円程度になります。公費助成は、自治体によつては公費助成はありません。

助成があり、大阪府下では枚方市、寝屋川市、松原市、和泉市、富田林市、太子町、河内町が年齢制限で、一定額を助成しています。大阪府在住成人には公費助成はありません。



参考資料:「健康2003.3月号p76より」松本慶蔵 (伴師会愛野記念病院名誉院長)執筆

(記者 T)